２０２２年「ヤマトサンショウウオの産卵調査」

―鉢ヶ峯のため池・用水路と光明池湿地―

報　告／酒井　和子
写真／①～④⑦～⑨／酒井、⑤～⑥／野口

調査日／２０２２年2月１９日（土）９：１５～１２：１５　曇り後小雨
集　合／どんぐり広場９：１５　解散／現地１２：１５
調査者／野口隆司、米道綱夫、小西武憲、酒井和子
調査地／■鉢ヶ峯地区
・谷頭池（谷津田上部のため池）
・勾玉の田んぼ　上の池と用水路
・ホタル橋奥のじとじと地（旧ため池）
■光明池地区
・雑木林内の湿地

調　査／ヤマトサンショウウオの産卵は春を待たず、まだ寒さの厳しい２月末から３月初旬に始まる。今年もそろそろ調査のシーズン入りと思っていたところ、２／５に光明池の湿地で１対の卵のうを確認したという山本・野口さんからの速報が入り、２／１９に鉢ヶ峯地区と併せて光明池湿地の調査を実施した。
周知の通り、ヤマトサンショウウオ（以前はカスミサンショウウオとしていた）は、堺市２０２１年レッドリスト（ＲＬ）ではカテゴリーＡの絶滅危惧種であり、大阪府でも環境省でもＲＬ種に挙げられている希少種である。棲息環境の悪化や個体間の交流の減少で繁殖力の低下などが要因だと見られているが、近年はアライグマによる捕食も顕著で、繁殖が懸念される状態になっている。

■鉢ヶ峯地区

・谷頭池　０対　（卵のうはコイル状で、２個が対でつながっている）
２０２１年まで５年間幼生が確認されている（堺市環境共生課が調査。２０２１年は８頭確認）が、卵のうでのこの時期の確認は難しく、本年も不明であった。気になったのは、堤にアライグマのものと思われる糞が幾つか見られたことで、被害が懸念される。

①　谷頭池

②　アライグマの糞？

・勾玉の田んぼ　上池と用水路　　０対

上池は水はほぼ満水状態だったが、卵のうはゼロ。この時期同じく産卵するニホンアカガエルの卵塊も見当たらなかった。

用水路は水が僅かに溜まっている程度で流れもなく、ヤマトサンショウウオの卵のうは見当たらなかった。昨年も卵のうは未確認。幼生も見られなかった。

③　勾玉の田んぼの上の池

④　勾玉の田んぼの用水路

・ホタル橋奥のじとじと地（＋マムシ谷の旧ため池）　０対

２０２０年にはマムシ谷のため池で幼生が確認されたが、今回の調査ではマムシ谷のため池は土砂で埋まっており、ため池土手下のじとじと地も水が殆ど無くて、卵のうは確認出来なかった。マムシ谷は、谷の西側に東西道路が開設され、水脈が遮断された可能性があり、ため池への流入も減ったものとみられている。

⑤　マムシ谷の旧ため池

⑥　ため池土手下のじとじと地

■光明池地区

・雑木林内の湿地　１対

湿地は昨年より土砂が堆積して水深も浅くなっていたが、水は緩やかに流れていた。２／５に見つかった卵のうを探すが行方不明。土砂がほぐれた流れの淵で卵のうらしきものが見られ、掬いあげてみるとヤマトサンショウウオの卵のうだった。卵のうはサイズが小ぶりであったが、１対、ちゃんと揃っていた。これからが産卵ラッシュであろうか...。期待している。幸い今のところアライグマの足跡

も無く出没している様子は無かった。昨年のようなアライグマに成体が食いちぎられるような残忍な被害が起こらないことを願っている。

⑦ 湿地

⑧ 湿地の淵で見つかった卵のう

⑨ 1対の小ぶりの卵のう